

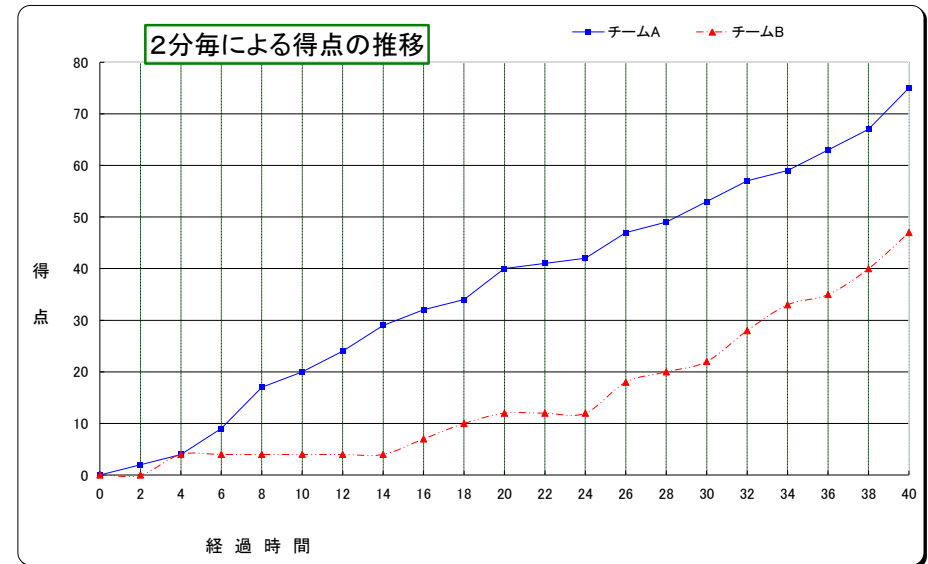
# 平成28年度第70回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成28年6月4日(土)  
本庄シルクドーム  
Bブロック1回戦

チームA	75	{	20	1st	4	}	47	20	2nd	8
法政大学第二 (神奈川)			13	3rd	10			22	4th	25

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	久保田悠斗	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0
5	戸井堅士朗	10	0	0	4	7	2	7	0	2	3	0	1	1	0
6	本田 尚登	6	1	3	1	1	1	2	0	0	2	0	1	0	1
7	山本 忍	5	0	2	2	2	1	3	0	0	6	0	0	0	1
8	美濃口海斗	6	0	2	3	6	0	0	1	2	4	0	0	2	2
9	鴨志田紘希	2	0	3	0	0	2	2	1	0	3	0	1	0	3
10	金井塚優人	9	1	2	3	5	0	0	4	3	4	2	0	0	2
11	竹内 大河	7	0	0	3	3	1	2	0	1	1	0	0	0	0
12	南本 和馬	5	0	0	2	3	1	1	0	1	2	0	0	0	0
13	新堀竜之介	6	0	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1
14	小野 怜史	3	1	4	0	2	0	0	1	0	2	1	0	0	0
15	中木 雄平	3	0	0	1	5	1	2	1	1	4	0	0	0	1
16	加藤 寛敬	5	0	0	2	4	1	2	0	1	2	0	0	0	0
17	夏 啓太	4	0	0	2	5	0	0	2	0	4	1	0	2	0
18	坂本 祥平	4	0	0	2	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0
コーチ	鈴木 恭平														0
		75	3	17	28	50	10	21	10	12	41	4	3	5	11
		確率	17.6%		56.0%		47.6%			計	53				

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	大久保洋平	8	2	11	1	2	0	0	1	0	1	1	0	0	1
5	菊池 泰志	11	0	0	5	13	1	4	4	1	3	0	0	0	1
6	徳光 優大	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0
7	倉田 大輔	0													
8	益子 紘夢	5	1	4	0	3	2	2	5	0	3	1	0	0	3
9	佐藤 元暉	5	1	4	1	2	0	0	2	0	0	0	0	0	3
10	齋藤 僚太	0	0	0	0	1	0	0	0	2	6	0	0	0	0
11	山崎 玲緒	2	0	1	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0
12	板橋 真平	9	1	9	2	8	2	4	2	4	5	0	0	0	3
13	須賀 勢也	3	1	11	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
14	飯塚 侑樹	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0
15	石川 颯汰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	飯泉 海斗	2	0	2	1	2	0	0	1	2	2	0	0	0	0
17	樋渡 龍也	0													
18	逆井 大輝	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コーチ	稲葉 弘法														
		47	6	42	11	33	7	12	17	10	23	3	0	0	12
		確率	14.3%		33.3%		58.3%			計	33				



**戦評**

第1P 両チームマンツーマンディフェンスでスタートする。秀英は外角のシュート、法政二高は#5を中心としたインサイドプレーで攻めの形を作る。互いに粘りあるディフェンスでなかなか得点が決まらない。残り3分、法政二高#14の3P、#5のインサイドプレーで6点差となり、秀英がタイムアウトをとるが外角のシュートが決まらず法政二高リードで終わる。

第2P 法政二高は#17を投入し高さを活かしたゾーンディフェンスに切り替える。秀英はなかなかシュートが決まらずゾーンディフェンスを崩せない。法政二高はインサイドプレー、外角のシュートなどリバウンドを活かし得点を重ねていく。残り6分秀英はタイムアウトをとりディフェンスプレッシャーをかけるがリズムが掴めず法政二高リードで前半を終了する。

第3P 秀英は出だし法政二高の厳しいディフェンスにリズムを崩され得点を広げてしまうが、残り5分タイムアウトを取り、直ぐさまスクリーンプレーから#5、#12が得点をとる。#9の3Pも決まりリズムを取り戻すが、なかなか点差が縮まらず終了する。

第4P 秀英はオールコートからプレッシャーをかけるがシュートが決まらない。法政二高はベンチメンバーに交替する。お互いに得点が伸びずロースコアのまま試合が進み終了となる。最後まで粘り強いディフェンス見せた秀英だが外角のシュートミスが悔やまれる試合であった。法政二高はバランスの良いチームであり二回戦も期待したい。

記載者 根本靖雄